

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Eduardo Regalado Florido
出身地：キューバ
所属：アジア・オセアニア研究センター
日本滞在：2008年9月～12月

日本文化との邂逅

エドゥアルド・レガラード・フロリド

私の日本文化との出会いは、恍惚と謎の入り交じったものである。私のきわめて限られた日本滞在中で、この国の独特の文化との接触と交流が容易ではないことに、私はすぐ気がついた。日本はその秘密とそれを解く鍵を容易には渡さない。従って、よく考えながら一歩一歩小さな歩みを進めていくしか方法はないのだ。

知らない日本人に近づくには、非常に正確な意味での礼儀と声音を使わなければならない。これは日本人が張り巡らしているバリアと距離を破るために不可欠の基本である。日本人は一見冷たく、また近づきたい印象を与えるが、いったんそのバリアを破ることができれば、非常に親切で、進んで助けの手を差し伸べてくれる。

日本がその独自の文化の中に相反する要素を共存させているのはとても興味深い。一方では極端なまでの近代性を持ちながら、他方で何千年もの伝統を維持している。急速に近代化を達成したことに満足しつつ、伝統的な生活様式も誇りを持って守っているように見える。着物姿の日本人を通りではしばしば見かけるが、彼らからは非常に厳を感じたものだ。

外国からさまざまなものを取り入れつつ、日本人はそれを自分たちのやり方にならし

てしまう。私は日本でいろいろな料理を試したが、外国起源のものであっても、日本の中で進化を遂げ、日本料理のような独特の料理になっているものも多い。

キューバと同様、日本でも野球が非常に盛んで、大変に人気があることに驚いた。しかし中でも驚いたのは、電車の中や通りでは静かな日本人が、野球場ではまるでキューバ人のように熱狂的にひいきのチームを応援し、感情をあらわにすることだ。この点では日本人とキューバ人の間には共通点がある。

日本文化のもっとも重要な特徴は、感情表現の仕方と、日本人同士の人間関係だろう。日本人は感情をあまり表に出さないが（野球場の中は別だが）、心の中では非常に激しい感情が渦巻いているような気がする。それに感情を表に出さないのは、表に出したくないからではなく、自分の感情を抑えることによって、周囲に迷惑をかけないように努めているのではないかと思う。

同様に日本人は感謝の気持ちを非常に深く持っている。私が電車の中で年配の女性に席を譲ったとき、その婦人は疲れているのではないかと思うほど何度も繰り返し繰り返し私にお礼を言った。

また日本人は思いのほか気さくで人懐こ

い。私は日本語はできないが、英語がほとんど話せない普通の働く人々と、きわめて良好な関係を築くことができていた。われわれはすっかり親しくなり、お互いに打ち解け合っている。たとえば私は毎日同じ時刻に同じ道を通って自宅と職場を行き来しているが、途中でいつも出会う人々と友人になった。私はいつも彼らと顔をあわせるので、そのつど挨拶をし、彼らも非常に温かく挨拶をしてくれる。それはとてもありがたいことだ。

一つ興味深いと思ったのは、日本でのテレビの教育的で特別な役割である。テレビはあらゆる事象や過程を説明するのに使われる。高い技術力に支えられながら、頻繁にそして強烈に画面の中に図や像を映し出すことで、その事象や過程を代表するものを描き出す。教育効果も大きく、表現も頭に残る。偉大な作劇法（ドラマツルギー）を形成していると感ずるほどで、とても効率的にまた意欲的に目的を達成している。

また日本はとても安全で、外にいてもリラックスしていられる。日本文化の中に私はほんの少し足を踏み入れただけだが、そこで得た経験はとても楽しいもので、私にとっては決して忘れられないものである。

（前海外客員研究員／訳：山岡加奈子）